| 45 | 大陸主義者同 | 1968 | 大陸全 | 大陸主義者同

1ついての意志統一を行う必要がある。 はぶ不足している臭と、今後の情勢の連展(発展)ある。 ここでは、こうしに情勢の確認の上に立ってある。ここでは、こうしに情勢の確認の上に立ってある。ここでは、こうしに情勢の確認の上に立ってすでに、「簾火」204で速べてあいに称に、現在のすでに、「簾火」204で速べてあいに称に、現在のすでに、「簾火」204で速べてあいに称に、現在の

級盾型の分析をよりちゃつに行い。 明らかにする必要があること。「こっちには、 主義運動の何題と、黒人運動についての評価と展撃を 帝四主義列風を中心としたものであるのに加えて、 会主義諸四、これと不可分の結びつきをもつ回際共産 が三つの経境にめたって討議された。一つは、情勢が ら明らかとはる今後の情勢と、これに対するわれ ている状況と今後の方向、三つめには、 に不足してぶり、どうしてもあぎほう必要のある面題 某日行はかれた大阪府季員会にあいて、「大花的女子 運動的、 口際共産主義運動と階級情期。 組織的対応の方向についてである。 「反成しのぶかれ などこの上が 日本な音 th In 社

題を口食と四民の親庭にすりかる、 的な諸囚民の親睦の向題にすりかだようとする傾向で 現実の諸関係を、その内容のうちにみるのではなく、 南口主意の美化を生み出している背景は、主要には二 計率を囚家
南関係にもと
ずき、又、これに結果すると つの原因によっていることを見ばければならたい。 るかは、すでに見たところである。然し、こうした「 たものであり、帝囚主義を美化するところのものであ にもとずいて評価しようとすることが、いかに誤まつ いれているベトナムが年と今後の展望を、主観的魔堂 形式上の諸籍果から判断し、階級計争を常にルプル 階級引手のちょっとした変化や ケスルジョア件に由来するでころにあり、これは、 ジョンソン声明と米帝四主義を週少評価、現に行る これを、 政治や圣宵が囚際的なものであるにもかつゆら こうした傾向は、 日家と諸何人との関係にすりかえるのである 各国バラベラのものとして理解し、 囚院的西次元以后級引年の向 回内に在ける指級 ズルジョアジーの 階級

> 事等やは、 こうし巨百いオルショアイデオロギーが、アロレタリ 主義にもとずく皆数3年の以際的な同質性、 さして感動もあた之る声明の一つ一つにともなって 又、その相互作用のダイナミズムを死れてるところに ひのである。 アートをつかびばかりか、安易な圧撃をもいきずりこ している からまりあい。同僚性をもって進行しているかをしめ 未遂と学生運動の写場、 黒人の反乱、西独に於けるドチュケ7205議長の暗殺 ある。一つめは、各四件の物的基盤と関係している。 国家の枠の中から対応にようとし、 アメリカに於けるギング暗殺にともなっておこった 現在《階級計學形 それは、四解的は階級才争に対して、 日本に必ける弾田と計争8品 回席的にいかに密幕に プロレタリア山際 同時性、 諸

速に、 恵の用始の前に、我々が立たされていることを見なけ るということである。帝国主義のより、こみいった女 的にも、より教しい校力の弾圧、作譲に立たエルマリ ることに注意しなければならない 階級子争が、昨年夏、昨年暮から本年春にかけて、 ればならないのである。 現在、こうレに基本的な傾向が、 すべに 運動的に、 一昨年秋以来 粗織的に、こうしに傾向を強めてい 炎い結びつきを示しばじめた 口際的にも、 口内 急

あれ、これをうけたのか、と言うことについて、例がヨンソンを明に対して、何故ハノイが条件つ 各口の 花しいみろでは 義者とプロレタリアートにかせられている任務を明ら がといかえされるのである。そして、 でこのことは、 るものと規定した。即ち、 沢にあかれていたことを教令は見なければほろないし ら八日の月班日にかけての教日间、きのめて重要な状 ム単細では対於出来ないというとであった。 かにする広観でもある。 バノイ・ベトコン、そして黒人運動が、 この何思こそ、牧々をはいめとするすべての大産主 世界の階級子中の最も突キレミシリをになってい 安産主義者の対応がどうだったのかと言うこと 何もりも、 米帝四主義の政治的まきかえしによ このまきかえしに、 ジョンソン声明に対応する 何政ハノイが条件つきで この同じことが 四月からめ ところ

にもとわれていためである。

者とプロレタリアーんは自己批判したければならない、人ノイが、声明を受け入れたというのは、同じく、ションソンを引きなを追りてとである。この実にかけて、女々をもふくめて、ハノイまちの対応だったかははならに対する我々自身の向騒をも含めて考えていからばならに対する我々自身の向騒をも含めて考えていからばならに対する我々自身の向騒をも含めて考えていからばならに対する我々自身の向騒をも含めて考えていからばならに対する我々自身の向騒をも含めて考えていからばならに対する我々自身の向騒をも含めて考えていからばならに対する我々自身の向騒をも含めて考えていからばならないがある。との実に対してハイイの対応と同い同騒を教令もかうとした対してハイイの対応と同い同騒を教令もかうだいというのは、同じく、ハノイが、声明を受け入れたというのは、同じく、ハノイが、声明を受け入れたというのは、同じく、ハノイが、声明を受け入れたというのは、同じく、ハノイが、声明を受け入れたというのは、同じく、ハノイが、声明を受け入れたというのは、同じく、ハノイが、声明を受け入れたというのは、同じく、

実質的に米冊を美化する役割をはたしているのである。 更に後重した、均衡的支援に中心をむいた態度をとり せる結果となっているのである。ソ連は、これよりも こうした制限されたもの に終ることになったのである。中央、その代の対応も ン声明のギマン性をベクロするという制限された対応 根実の北烽とのちがいを否定して、ここからションソ ***る必要があったし、現在も又ぞうである。然し、現 否し、それがもっているギマン性と作謀を、ダンガイ すぎはい。我やはジョンソン声明に対して、これを指 か、各口の共産党がどう姓にしたのか、華々の向騒が 声明以降、これをどうするのか、どう評価するのか、 (B)、四顆共産主義更強い分ける山麓は、この臭いまで 以上の「立ちずくれしによってもたろされたギモンに 山出して来たのである。 又、この声明によってあこった影響にどう対応するの このようにすべての口の芸芸主義者とアロレタリア につまっていたのである。火帝のまきが之しに対して トが、たちおくれをしめしたことを見た上で、ハノイ ハ・イの条件っき声明安け入れと共同歩調をあり しかし、これらは、所姓は 一条件づきーとなってお

おることを明存け水ば存らはいのである。でのべきことき、オルジョア的な対応を生み出させてでのべきことき、オルジョア的な対応等やがあるのであり、まれる動産と浸納、型分的対応等やがあるのであり、まれる動産と浸納、型分的対応等やがあるのであり、主義運動がおちいっている、不徹底性と、そこから生は高のである。

をゆるすわけにはゆかないのである。 観客しになりがかるのである。この歌語と情報的誤り タリアートは自己のキリの弦葉から、「コロシアムの 大評価とが生まれ、諸四日だける共産主義者とプロレ の利立と、この利立とは要ならに、ハノイに対する過 て、米帝に対する最下、行曲は、再び母室的はペナナム 大手を小るって拍頭する結果を生むめである。こうし 考えが文配し、こうしてハノイ声明の無条件の雑誌が はベナナムの人々によって決まるものだという異名な 枚ちくされる悲教をつくり出しているのであり、 は外的にかっいりあっているにすぎず 下がることによって、女々の運動の直接的だけなから おける対応は、所詮水に義的は、受動的なものになり ということをとあって、ベナナム战争は トナムと、米四との国家向男体の向最であり、各回に ツョンソン声明と、これに対するハノイの対応まち ベナナム大学 すべに、 我令

東病に、全古界をゆるがし、ジョンソンをおいつめ、ておこつて、黒人運動は、皮皮にもハノイ声明とは、 さて、人ノイ声明から四月のオー趣に引きつづい

_ 3 -

おりたのである。 との時代に対し、我々は組織声明すら提出することが出来ないでは、、大田内の黒人屋動がベナナム戦争に波及し、こうしたいには、ベナナム戦争が米田内、再に古界に投及し、米田内の黒人屋動がベナナム戦争に波及し、米国内の黒人屋動がベナナム戦争に波及し、米国の北没は、ベナナム戦争が米田内、再に古界に投及して、米田内の黒人屋動がベナナム戦争に波及して、大田内の黒人屋動がベナナム戦争に波及して、大田内の黒人屋動がベナナム戦争に渡及し、大国の地では、大田の東に致命的は動力をあった。、四層的に、攻唐を必要があったし、大人のは組織声明すら提出することが出来ないったのである。

一一四次的に指揮して、「日本に於ける階級計争の時間、又同場的に追答する声明階級計争のダイナミズムに対して、資本主義の危機の進行と、何度もく、くりか之しら後ぶことがどれほと重要であるがを教えた。又、こうした事階級計争の設が、何度もく、くりか之しら後ぶころだろうことをはっきりとはみとり、こうした基本的は動に、傾回をはっきりとよみとり、こうした基本的は動に、大りあげられるに方がいない。こうした基本的は動に、「傾回をはっきりとよみとり、こうした基本的は動に立ち、これら日本の階級計争も色置づけ、指導しなけるだって、の話でのはっきりとよみとり、こうした基本的は動に立ち、これら日本の階級計争も色置づけ、指導しなけるである。

情男の特徴がある。 情男の特徴がある。 で表にからみあって重行しているところに現在の情報をあり金光生的は気運である。こうした二つの傾向が変の自然光生的は気運である。こうした二つの傾向が変の自然光生的は気運である。こうした二つの傾向が変の自然光生的は気運である。こうした二つの傾向がある。

を表することにおって、下海に着りと平和。 の回来回口来、立め一となるがで、大変のは、発生的気量によって、大変のは、発生的気量によった、 で定的は重要性をもってのしかくって表るのでの口楽に、 口内的政治的流動化が、 敵しく 声ればける おのかり アジア市場関係得と、 四内に於ける岩母津田の強化は アジア市場関係得と、 四内に於ける岩母津田の強化は 中心とした日本帝回主義の東南

をインペイするものであることはまながいない。
田に対して計つことなくしては一歩も底层しないこと
内政治を要求することは、現実の請注中が、校力の弾

日帝の東南アジア太平洋構想は、韓四から、インド日帝の東南アジア太平洋構想は、韓四が、八名の神田は「破防法」から、実験的は「ソウ乱めている。神田は「破防法」から、実験的は「ソウ乱めている。神田は「破防法」がら、全済的焦点をおって追

昨年春の10名手事以降、女々女人がモニーのもとに展開して来た運動へ大衆手中とは、一才でこの新しい世格の単年に当面して居り、他才では、大衆の自然発生的高場と、これに便乗した、社夫、合明・民社・自生的高場と、これに便乗した、社大、合明・民社・自居見友主流派の「話し合いとである」という大沢に立たされている。

かって10分の段階に於いては、母野は巨大な中に拡大することによっていき入れられて果た広汎は大製の意識を反映し、他方では、議会主義的は、祖母主義的は動き反映し、他方では、議会主義的は、祖母主義的は数治的対応を、社会や、共産は、選が指頭しており、社夫政治的対応を、社会や、共産党が指頭しており、社夫政治的対応を、社会や、共産党が指頭しており、社夫政治的対応を、社会で、共産党が指頭しており、社夫政治的対応を、社会で、共産党が指頭していることであっているが、現在は、運動は巨大な中に拡大の組織力を背景にした大製の自然会によっているである。

(8) 日本帝四主義の東南アジア侵略は、政治的、圣清の意成派、条件っきさんせい派的対応が、この沖縄をいるのである。ジョンソン・ハノイ声明に対する左右の意成派、条件っきさんせいる。そして、機嫌、東南アジア、太平洋の英田にやたる圣清的、政治的精政系が的に極めて重要にはつている。そして、機嫌、東南アジア侵略は、政治的高政系がのでってもつくり出されているのである。

すとするのである。それは、白田安友主のの主流できながから、東南アジアになする「自主分交」とそず分割が単いかれらつとしている。そして、この民族主義が単いかれらつとしている。そして、この民族主義

北条的年と結合して展開されているのである。近条的年と結合し、あの五の年代の全紀里路論、核状散は、大学の一に傾向が、核国盟が、非核問盟が、といつ「核験斗争が展開されようとしているのである。そして、大学の年と 結合 主義的 たっぱら 主義的 たっぱら 主義的 たっぱら 主義的 たっぱら 主義的 たんだん

(B) 核同盟か、非核同盟がをめぐる反伍トーのは政府を以降フくり出して来た運動のヘニ・モニーが集約と、ゆこうとする自民党反主流、野党連合のもとに、10人ようとして、は南国語がをめぐる反伍トーのは政府

て、反政府運動、佐藤内閣打倒の動向はたしかにある。しかし、この反政府、別海運動の改治的内容は、すべに述べて未たとありである。そしてこれは、佐藤の全尊連三派と職職反战を中心とした前隊を孤立とせ、から単田をこのが介に来に対してある。としてこれは、佐藤の全尊連三派と職員反战を中心とした前隊を孤立とせ、から、単動からはいじますることによって、原政府運動、佐藤内閣打倒の動向はたしかにある。しかし、この反政府、別海運動の改治的内容は、するで、アスケモニーの場合は、日本の方に対して近代である。

できれた、我々の組織的伝統に明らかにする必要ができれていている。「オで大衆かたが断にようとしている。この向職に我々がどう答えればよりかになっとしており、他才で枚力が「集中した禅中を行はおうとしており、他才で枚力が「集中した禅中を行はおうとしており、他才で枚力が「集中した禅中を行ばあるうとしている。「オで大衆かたが断にようとする作動をされている」とは、現在にで押し進めて来た、我々の運動が、きめめて重要なら前に入っていることを、現在にで押し進めて来た、我

おいるだうつ。四、五月の近季にむけての倒閣を与へいる中で、日本に於ける政治状況は、ベトラムとハヨハッスをめぐる昨年暮以来の状況から、ジョンソ、一声、ハッスをめぐる昨年暮以来の状況から、ジョンソ、一声、シネをの流れはつくりれてゆきつつある。

①社、共 高改算やの政治路線は、沖縄川着早を中心としたそのにあり、これを中心とするかごし、この里部で入がモニーを獲得しようとしてリスのこれに対して我々がおし進めて未だ、実力主争、(最近では現地主争)を、こうした社共、福政のカーペニア、天威運動とのかんけいでもつするのが治路線は、沖縄川着早を中心とうするのかんけいでもつするのが治路線は、沖縄川着早を中心するのである。

げきろうとしているのである。 場所をとり、三重成術をとり、北沢に技術主義的にに 対して、中核派は、王手野昭三1116から、北日軽に 運動に乗って社共のペースに入ってしまった。こ外に いるのである。在青同解放は をたとってあり、土の、シリ 女」、原对来中心, 多分、少二 現地斗争をおしつふてうとしているのである。これに は排除するという姿勢と权力の単年が一体とほって、 カンパーで、不成運動をおこし、これにはみ出て部分 ②現在、が大は、春半と冲然変カンと「ジョソン・ハ ノイ系明し支持を中心とした政治路線と、このための 4かり、4%半年を提事すしている。 これに対して対が中央 在共の末威ガンの ニア 4/17年や後退して来て 、サス以降急速に後退

状况に対し、我々は組織声明すら提出することが出来であったし、又必要だったのである 盆し、こうしたの北沢は、ペトナム战争が米四内、再に在界に殺反し、光里又、米四内の黒人星動がペトナム战争に没反し、米里又、米四内の黒人星動がペトナム战争に没反し、米里文、米四内の黒人星動がペトナム战争に没反し、米里文、米四内の黒人星動がペトナム战争に没反し、米里文、米四内の黒人星動がペトナム战争に没反し、米里文、米四内の黒人星動がペトナム战争に必及し、七季の時間があった。四際的に、攻唐る必要があった。、すべきであった。四際的に、攻唐る必要があったし、すべきであった。四際的に、攻唐

情男の特徴がある。 情男の特徴がある。 で表にからみあって進行しているところに現在の情報を内自必発生的を気運である。こうした二つの傾向が変の自必発生的を気運である。こうした二つの傾向が変の自必発生的を気運である。こうした二つの傾向がない。日本に於ける階級情男の中心問題は、こうしさて、日本に於ける階級情男の中心問題は、こうしさて、日本に於ける階級情男の中心問題は、こうし

東京南部でどにはつで、下海に着いと平和」の回来回で、 で見的は重要性をもってのしかくって表るのである。 しゅしとを起れて、大家の食べを生的気質にたった、で見的は重要性をもってのしかくって表るのである。 しゅしとを起れて、大家の食べを生め気質にたってのでの、で見からは重要性をもってのしかくって表るのであり、では、日本中の主義の東南現在、自民党主派を中心とした日本中の主義の東南

をインペイするものであることはまちがいない。日に対して計つことなくしては一歩も度展しないこと内の対象を要求することは、現実の請引手が、权力の弾

日帝の東南アジア太平洋構想は、韓四から、インド日帝の東南アジア太平洋構想は、韓四から、元の前に代展し、大衆斗争の切り崩しをはかろうめている。韓圧は「破防法」から、京原的は「ソウ乱めている。韓田は「破防法」がら、インド

昨皇暮の10を半年以降、女々のヘデモニーのもとに展開して末た運動(大衆半年)は、一才でこの新しい展開して末た運動(大衆半年)は、一才でこの新しい民党友主流派の「話し合いと平和」に対抗しなければほらはいという状況に立たされている。

なかったのである。

かって10名の段階に於いては、耳疾の「反トロ、キャンペン」「暴徒」と、新面の「暴徒」キャンペーンであり、では、大いの対応を、社会型、共産党が均頭しており、社夫政治的対応を、社会型、共産党が均頭しており、社夫政治的対応を、社会型、共産党が均頭しており、社夫政治的対応を、社会型、共産党が均頭しており、社夫政治的対応を、社会型、共産党が均頭しており、社夫政治的対応を、社会型、共産党が均頭しており、社夫政治的対応を、社会型、共産党が均頭していることでは、社会型、共産党が均頭していることであっているが、現在は、運動は巨大な市に拡大の近期がある。

(8) 日本帝四主義の東南アジア侵略は、政治的、圣清の海の派、条件っきさんせい派的対応が、この沖縄をいるのである。ジョンソン・ハノイ声明に対する左右いるのである。ジョンソン・ハノイ声明に対する左右いるのである。ジョンソン・ハノイ声明に対する左右いるのである。ジョンソン・ハノイ声明に対する左右いるのである。ジョンソン・ハノイ声明に対する左右の海の派、条件っきさんせい派的対応が、政治的諸政策がめた。大学の議院派、条件っきさんせい派的対応が、政治的流域を表面の議院派、条件っきさんせい派的対応が、区治的諸政策が、大学の議院派、条件っきさんせい派的対応が、区治的諸政策が、大学の議院派、条件っきさんせい派的対応が、区治的諸政策が、大学の政治が、条件っきさんせい派的対応が、区治的法域が、大学の議院が、大学の政治を対しているのである。

でとするのである。それは、自主党を主流の圣清をのががない。東南アジアになする「自主外交」と不可分野が単以かれらつとしている。そして、この民族主義・国の復帰しというナショナルは対応のもとに、全軍

___ 3 ^

後し、このは、近、改善年の大権は、この前の以上のよう「政治的諸関係と」 政府の問題に対して十分に対

③東地当年と離中央主年との関係、東地斗争の現状と、中央主年が向政志こって末ているのか、そして、これらにどう対応しようとしているのかをはっきいとされらにどう対応しようとしているのかをはっきいとされるとの中央主手が向けての中央主手がある。現在春斗との関係で中央主年が、五日中旬にの中央主手が一帯後退し、五日中旬に成田ボーリング阻止が年が高まり、大月七月にかけて再び、東世年にのけての中央主手がある。現在春斗との関係で中央主年が、五日中旬にの田ボーリング阻止が平が高まり、大月七月にかけて再び、東世年にかりまい、東世半が一帯後退し、五日中旬に成田ボーリング阻止が平が高まり、大月七月にかけて再び、東世半年が高まり、大月七月にかけて再び、東世半年が高まり、大月七月にかけて再び、東世半年が高まり、大月七月にかけて再び、東世半年が高まり、中央主手が向政府では、東地半年の現状と、中央主手が向政府にはいるのかをはったりという。

これにヘゲモニーが移行するにおよんで、急速に社共 部分をのこし、深方や本関係は、構改系に正殺され、 のカンペニア元威運動に候斜していったのであり **篠斗争に対する反対と、これにそった圧力としてある** 與地反対同盟に対する日かに発展し、全党連のゲバ機 川川で来たのである。現地主年へ四山ま年)に対する かって末だ。そして当然、このまきかえしは、灰田の とに従がりせ、従がめないものは非除する)を中心と 茶を中心にかにめて人ぐモニーをとり、この統制の主 して、東京反战、全四反战での組織的まきかえしをは 佐古保斗争以降の「反战」に対する方針へ反战を構改 た。社気党の三派宝管理と反战に対するまきかえいは 10分半年の段階では、日共の「暴徒」「反トロ、キャ うした社共の対応に対して、解放派は、内部が一分 ンペーンしとしてあり、これが佐吉保レ成田とつづい 成)と社共との関係の中でつくりあげられている。現 し、党内主争が生まれていったのであるが、学生の 地斗争に対する中央法争のこうした関係は、すごに、 中央斗争と現地斗争の関係は、 の一中央上年と問題現地ます。すでに述べたまった、 我や八三巡走を重と反

> 大針の内で位置づける必要がある。 ゲベルトでやるかやらはいかを含ったンで以上の基本 が、この場合、中央も手にだける「自の見水政術とし て、日出台少で気に対する以他に、その主学政術、 **老前進させるための努力が必要になって末ている。た** 的政治バクロと、ここに結集している労の者を一歩で な、状況を考って、これに対する、致々の対策は、全体 があるのである。又、中央斗争につけては、以上の旅 り、そして、当面の小局面に合ける対策を起せる必要 行祖山山争を原則的に愛徹する方針を決いる必要があ 世は年に対しては、五一六日を、更にはモラツし長期的にとる仪事性が生まれているのである。我々は、現 ているということである。そして、行政共行权力の執 卓をつくりあげてゆく体制とか針を決定する必要が出 の展拏のもとに、成田、王子、新島等やごいくかの拠 した、政治関係(力関係いる原状している、世界斗争過程でもあった。以上のことから言えてことは、こう 争け、春斗を背景として、この向の及政府運動物便乗 が移行していった過程でもあったのでもる。又、 である。そして、これは、社共人、行々のかてもこ 以降の三派を中心とした隊列が、この向籍にてい 南の中央→争と東地が争のペースに出る立てて来たの して高まり出したのである。 **計争は急速に政策をリンにおいこまれ、他才、中央斗** のである。こうして、 民間との共計から、各地区反战段階にはいる社共路線 一部で対応するという組織的術にきりかるで来ている へのつり従と、現地を手は宣伝を中心とした、学生の 典地手奉に入して、名文 例の「日本型労位更勤」の評価とあいまって 以上なようにして、こめ ر 2 見体的は対策を組織 ち業々の東地 こう

置づける义等がある。

型事が斗の水にのである。このは、全国動奏、と全国は反成をつくりあげるというにかたちで度められて来たのである。この場合の全国計争というにかたちで度められて来たのである。この場合の全国計争というにかたちで度められて来たのである。この場合の全国計争というにかたちで度められて来れているというにかたちで度められて来れているというにからると同時である。このは、現地計争と全国計争との関係は、現地計争と全国計争との関係は、現地計争と全国計争との関係は、現地計争と全国計争との関係は、現地計争と全国計争との関係によりには、100円で

この中央主事に対する党派政術は、はっきりと党を元 唐保で中央斗争にかゝかりあう必要がある。そして、 の向景として灯程する必要があるのである。 確固とした体制をつくりあげる必要があり、これとの 運動を行なっている。我々は、各地域、年区、伝域に を示しはじめるし、又そうほらざるを得ないのである の中では「はっきいと「現在の現地主争と同称の発展 の出来るかぎりのことをやる文字があるのである。た 東京出張程度でよいし、(ごの出来のせ、この中で牧々 地区党を中心とした主手を急速につくりあげる必要が 必要はあまりないのであって、これは「大七動員」の 社共は、中央主章を中心として、カンペニアと不威 した関係の中で理解しなければならないのであうて、 あるのである。にから、現実の全口動見が針は、こう ま手を、一方でけんじしたがら、他方、各都直府県 やはり、まだ女々の弱さの向題としてあるのである、 て来ている。こうした目を全口にたるとこれでつくつ だとしてつくりあげてゆく必要があるのである。こう ていくという体制が、初度府県委員会、各地区党を中 したかたちの「全日三年」が出来ないでいることは、 かに今後、社共の中央斗争も又、今後の情勢の進発 全日石ので共年や東京がおこるといった状況が主まれ 在共の中央主争に対して、安易でに全国動員を行う ここから、現在までの全回主等へ全回消費)=現地

体をもった手いとしては斗のれてはいないということ である。登し、現在の中央手手のこうした性格はしけ 中央斗争が、東松斗争と不可分の盆びつまをよって重 められた、真に「反政府的は、ある」は倒閣法章の異 らないのである。何故たら、現在つくり出されている は自然発生的は、又形成的はも8であるとこれねばた との関係をつくりあげるわけでは行く、この結びつき もとで、ストレートに、現段階の中央斗争と地方斗争 争と各地方の引争、組織の関係は、現在の政治情勢の して、永久的な、 子9の関係、このストレートの関係にあける. らみである。現在までの全囚手争(現地計争)と処方 7大きは意味での「中央11年と処方19年との関係は明 中央斗争と地方手手」すでに以上のことで、ほ 固定したものではなく、近り発表 現化斗

またつくり出して来ることを、はっきりと見難して由きたつくり出して来ることを、はっきりと見難して由きたつくり出して来ることを、はっきりと見難して由く必要があるのである。そして、当面、かいりをしめしている中央主筆と似方斗争がいづれはストレートは結びつ中央主筆と似方斗争がいづれはストレートは結びつ中央主筆と似方斗争の現状をふまえたよで、はして印く必要がある。基本的には、現代斗争と似方斗争の関係からつくりあげられて来た路線を多株化するとともに、中央主筆、中央党派战術とのかっかりをもって印く必要がある。

はっきりと自確してかっらぬばならなり。ことも超載である。実践とは組載活動であることを、この向の階級情勢が要求していることは一にも組織

(主) せらの間縁大性、及び、当面の大家を中の大会

第3、 「「一」では、別当、党心は事等やとの曳」では、2 学科については、別当、党心は事等やとの曳

(国3、大、七、八月にむけて、口磨的、四内的に向(国3、大、七、八月にむけて、口磨的、四内的に向